

「文芸倶楽部」小説総目録 その四（明治35年～36年）

山根賢吉編

第八卷第一号（明治35年1月1日発行）

箱根草	幸田露伴	1
海底の美	江見水蔭	10
佐渡の文覚	遅塚麗水	51
心中手鞠唄	渡辺霞亭	76
		106

（注）〈浮世眼鏡〉欄に、不通庵「東京芸妓（一）」がある。

水の東京 幸田露伴
江戸の芝居 幸堂得知
後半「東京四季風俗」として、左のものなどがある。

松の内	鶴軒
藪入	雪浜生
初午	玉村
酉の祭	綺堂

第八卷第二号 定期増刊 東京（明治35年1月15日発行）

「東京」紹介及び案内記とも言ふべきもので、その一部の題名と筆者名を抄出しておく（該当ページは省略）。

江戸の新春 福地桜痴

第八卷第三号（明治35年2月1日発行）

正	雪塚原	1
不思議	恋雪	49
巾	幸堂	87
磯	得知	118
萍	水	118

小 楽 園 三宅青軒

119 ~ 138

「東京芸妓(四)」がある。

(注)「袖頭巾」は脚本。〈浮世眼鏡〉に不通庵「東京芸妓(二)」がある。

第八巻第四号(明治35年3月1日発行)

つとめ人 小杉天外

1 ~ 82

大 伯 父 ツルゲエ子フ作
磯峨の舎訳

83 ~ 116

浪 の 音 ト部 観象

117 ~ 128

狂人日記 松原二十三階堂

129 ~ 147

(注)「浪の音」の作者名は、内題には「観象軒主人」とある。「大伯父」の冒頭に「原名を『三個の肖像』と題する小説です」とある。〈浮世眼鏡〉に、菱花生「妓楼の新造(一)」、不通庵「東京芸妓(三)」がある。

第八巻第五号(明治35年4月1日発行)

紫 海 苔 江見水蔭

1 ~ 81

古 果 徳田秋声

82 ~ 89

草 の 風 斎藤素影

90 ~ 110

天才の人 松居松葉

111 ~ 152

(注)〈浮世眼鏡〉に、菱花「妓楼の新造(二)」、不通庵

第八巻第六号 定期増刊 京都と奈良(明治35年4月15日発行)

「京都と奈良」の紹介及び関西案内記。一部の題名と筆者名を抄出(該当ページは省略)。

京都御苑 中川霞城

京都の山水 堀江松華

京都の美術 久保田米僊

京都の俳諧 不通庵聴秋

都踊と鴨川踊 擁翠楼主

京都の島原 倭頭庵

壬生狂言 銅駝坊

詩の京都 三宅青軒

奈良の記 無名氏

奈良の遊廓 変通子

奈良風俗 渡辺霞亭

末尾に「関西旅行の栞」として、「東京より京都」「京都より大阪神戸」「奈良より京都」など約二十編を掲載。

第八卷第七号(明治35年5月1日発行)

紅梅御殿	遅塚麗水	1	46
此眼色	本田美禪	47	59
恐婚病	長田秋濤	60	85
擬ひ真珠	上村左川	86	142

(注)「擬ひ真珠」の作者名は、内題には「仏国ドオデエ作上村左川訳」とあり、その冒頭部に「原書はFromont Jenne et Rislerと題するもので茲にはScienceと改題せる英訳の書から重訳し人名は訳者が日本化したのである。」とあり、末尾に「(前編終、後編嗣出)」とある。〈浮世眼鏡〉に煙頓「御坊」、菱花生「妓楼の新造(三)」「あり、〈雑録〉欄に、花袋の「擬ひ真珠」の後に題す」がある。

第八卷第八号(明治35年6月1日発行)

栄華の塵	内田魯庵	1	59
不面目	太田玉茗	60	69
擬ひ真珠	上村左川	70	138
夫婦心中	渡辺霞亭	139	166

(注)「不面目」の作者名は、内題には「太田玉茗訳」とあるが、原作者名は記されていない。「擬ひ真珠」は、前

号の続きで、「仏国ドオデエ作上村左川訳」とある。〈浮世眼鏡〉に、不通庵「貧民窟(一)」がある。」

第八卷第九号(明治35年7月1日発行)

片桐且元	塚原洪柿	1	30
花の渡	中原指月	31	44
まぼろし	藤本夕馳	45	81
艶種記者	北村馬骨	82	108
新築の家	田山花袋	109	138

(注)〈浮世眼鏡〉に、菱花「たつき屋」、不通庵「貧民窟(二)」がある。

第八卷十号 定期増刊 大阪と神戸(明治35年7月15日発行)

「大阪と神戸」を紹介したもので、題名と筆者名をあげる(該当ページは省略)。

大阪城	渡辺霞亭
大阪の家庭	菊池幽芳
大阪の特色	根本吐芳
大阪の夏祭	久保田小塊
浪華の和漢文学	磯野秋渚

川の大 阪 木崎好尚

大阪の築港 高石生

第五回博覧会の噂 澁江生

大阪角力 香魚市人

大阪の芝居 霞亭

俄 香魚市人

大阪の花柳界 霞の家

堂島の人気 香魚市人

昔の大阪 久保田小塊

神戸発達史 国木田北斗

神戸元居留地 斎藤溪舟

神戸の神社 松蘿坊

神戸港の側面 疾樽居士

神戸の芝居 松蘿坊

神戸の花柳界 江上朝霞

第八卷第十号(明治35年8月1日発行)

その 畫題 菊池幽芳

美人像 染井菊子

雪舞 藤本藤陰

1 \ 53
54 \ 91
92 \ 112

二人袴 福地桜癡 113 \ 124

(注)「二人袴」は内題「醉二人袴」とあるように脚本。

《浮世眼鏡》に、不通庵「貧民窟(三)」、露軒「書生手箱」

が、《雜録》欄に、幸堂得知「玉菊考」がある。

第八卷第十二号(明治35年9月1日発行)

迷悟 三宅青軒 1 \ 37

雀の子 岡本綺堂 38 \ 84

金塊 猪谷赤城 85 \ 97

盜賊伝 二十三階堂 98 \ 131

(注)《浮世眼鏡》に、不通庵「貧民窟(四)」、菱花生

「船住居」がある。

第八卷第十三号(明治35年10月1日発行)

破れ団扇 渡辺霞亭 1 \ 63

北辰星 斎藤紫軒 64 \ 81

黄金世界 松居松葉 82 \ 131

花水川 江見水菴 132 \ 155

(注)《浮世眼鏡》に、素外「大龜(上)」、不通庵「貧民

窟(五)」がある。

第八卷第十四号 定期増刊 名古屋と伊勢 (明治35年10月15日発行)

今度は「名古屋と伊勢」の紹介である。題名と筆者名を抄出 (該当ページは省略)。

名古屋武士	渡辺霞亭
名古屋の風景	中原指月
金の鯨鉢	新田静涛
名古屋の芝居	高根老人
外宮と内宮	香坡散人
津城文学	古愚隠士
神都の遊廓	紅緑生
伊勢の奇習	蘿月散人

第八卷第十五号 (明治35年11月1日発行)

滑稽二人兄弟	長田秋濤	1	47
灯影	卜部観象軒	48	69
肖像畫	徳田秋声	70	101
愛と縁	嵯峨の屋	102	132

(注)「愛と縁」の作者名は、内題には「嵯峨の屋訳」と

あり、冒頭に「露国の田園詩人、ゲンリエット、カルグレエム女史の作で、原名を「造花の懐に於て」と題する小説で有ます、(中略)今篇中の人名を尽く日本名に引替て翻訳しました。」とある。〈浮世眼鏡〉に、素外「大籬(中)」、不通庵「貧民窟(六)」がある。

第八卷第十六号 (明治35年12月1日発行)

磯くづれ	江見水蔭	1	39
秋拾	柳川春葉	40	69
恋は名医	榎本破笠	70	84
悲痛の調	田山花袋	85	137

(注)「恋は名医」は脚本である。〈浮世眼鏡〉に、不通庵「貧民窟(七)」、素外「大籬(下)」がある。

第九卷第一号 (明治36年1月1日発行)

ふられ鯉	巖谷小波	1	61
養老院	渡辺霞亭	62	87
大納言家	中川霞城	88	112
金欄簿	遅塚麗水	113	153

(注)「ふられ鯉」は脚本で、作者名は、内題には「大江

小波」。〔雑録〕欄に、松原二十三階堂の「翠丸の親爺」がある。

第九卷第二号 定期増刊 諸国年中行事 (明治36年1月15日発行)

題名と筆者名を示しておく(該当ページは省略)。	
旧江戸年中行事の一斑	福地 桜痴
三十五年 前	塚原 洪柿
江戸將軍と狩獵	岸上 質軒
天 長 節	坪谷 水哉
東都町方年中行事	雪中庵 雀志
相撲年中行事	三木 愛花
劇場年中行事	幸堂 得知
芝居者の一年	船橋 左七
魚河岸の一年	岡本 綺堂
京都古今年中行事句合	中川 篁城
大阪年中行事	渡辺 篁亭
浪 華 ぶ り	木崎 好尚
大阪の一月	久保田 小塊
名古屋の新年	中原 指月

第九卷第三号 (明治36年2月1日発行)

神戸年中行事	江上 朝霞
再 度 詣	斎藤 溪舟
年中行事 雑考	石倉 翠葉
太神楽 (雑録)	晚 鶏 成

劇オセロ	江見 水蔭	1	75
一 攫 萬 金	黒田 湖山	77	110
露 分 衣	佐藤 露英女史	111	132
ひとり棲	徳田 秋声	133	172

(注)「悲劇オセロ」の作者名は、内題には「シエーキスビヤ原」とあり、登場人物は、たとえば室鷲郎、伊屋剛蔵、お宮のように日本名になっている。〔雑録〕欄に、長谷川天溪「悲劇オセロに就いて」、田山花袋「山ふところ」がある。

第九卷第四号 (明治36年3月1日発行)

鉄 火	塚原 洪柿	1	55
あ だ 浪	藤本 夕馳	56	97

第九卷第五号(明治36年4月1日発行)

一軒百姓	川上眉山	1	48
毒語	小川煙村	49	82
愛	岩田烏山	83	104
金剛石	泉斜汀	105	161
渡守	海賀交哲	162	175
恋の曲者	森田二十五絃	176	189
狂蝶	千早霞城	190	200

劇人の子 上田敏補 98 ~ 128
 ゆく雲 鈴木狭花 129 ~ 143
 神学士 平井塙村 144 ~ 153
 江戸娘 瀧夜半 154 ~ 166

(注) 目次には、「ゆく雲」の前に「懸賞小説」とあり、この作以後は、「第一回当選短編小説」で、第一等が「ゆく雲」、以下第二等、第三等となる。〈雑録〉欄に、石橋思案の「第一回懸賞小説に就て」の選評がある。同欄には、泉鏡花の「茶一碗」があり、〈世態〉に覆面子の「大都の妖魔窟」、〈芸林〉に、垂柳生の「吉原の宵間」がある。

第九卷第六号 定期増刊 をとめ(明治36年4月15日発行)

桃	花	馬関	神戸	名古	大阪	京都	京都	花	花	春	ひと	李	柳	216	236
こ	と	の花	須磨	屋	の花	都	都	下	下	の	と	ば	川	192	216
李	ば	と女	春の	女	女	女	花	夜	夜	宵	草	柳	春	179	192
柳	川	長田	斎藤	新田	渡辺	中山	中川	江見	巖谷	川上	幸田	露	葉	160	178
春	葉	秋月	溪舟	静湾	霞亭	白峯	霞城	水蔭	小波	眉山	露伴	葉	141	159	
葉		月	舟	湾	亭	峯	城	蔭	波	山	伴		121	141	
														104	120
														89	104
														73	88
														45	73
														26	44
														1	25

(注) 目次には、「渡守」の前に「懸賞小説」とある。「第二回当選短編小説」であるが、「渡守」は第二等で、以下、第三等、選外となる。「金剛石」の内題には「ダイヤモンド」のルビがあり、「狂蝶」の内題には「くるひてう」のルビがある。〈雑録〉に思案の「懸賞小説第二回」の選評がある。

天なる星地なる少女	田山花袋	271	252
世界婦人観	武田鴛塘	252	268
花の姿	岩田鳥山	268	287
花模様三人女	田村松魚	288	301
嫁八人	思案外史	302	313

(注) 右のすべてを小説と断定することはできないが、一往すべての題名と筆者名を示した。なお、「神戸須磨春の錦」は、内題には「神戸春の錦」となっている。

第九卷第七号(明治36年5月1日発行)

おもひもの	広津柳浪	1	43
世わたり	柳川春葉	44	60
威力圧力	新田静漪	61	100
脱監囚	大沢天仙	101	114
明滅	鈴木秋子	115	146
白泡の記	川浪樗弓	147	159
袖ヶ浦	長谷川菱花	160	171
三つ巴	平山蘆江	172	184

(注)「おもひもの」は、内題「おもひもの妾」とある。目次には「白泡の記」の前に「懸賞小説」とあり、以下は「第三回

当選短編小説」の第一等、第二等、第三等になる。〈時文〉に、桂浜月下漁郎の「社会の害毒物」、「社会の闇黒面」が、〈雑録〉に、泉鏡花の「俠言」、思案外史の「第三回懸賞小説を読む」がある。

第九卷第八号(明治36年6月1日発行)

満地黄金	饗庭篁村	1	22
女教師	田山花袋	23	87
他見無用	小林蹴月	88	98
かくれ家	武田桜桃	99	127
女俠胸形おせん	福地桜癡	130	169
つきせぬ恨	瀧閉邨	171	185
篝火	北野華岳	186	194
女夫船	原貝水	195	209

(注) 目次には、「女俠胸形おせん」の前に「院本」とある。「つきぬ恨」の前には「懸賞小説」とあり、「第四回懸賞短編小説」の第一等、第二等、第三等の発表で、〈雑録〉に思案の選評がある。

第九卷第九号(明治36年7月1日発行)

氷柱越	遅塚麗水	1	28
燈火の巷	永井荷風	29	51
白藤	田村松魚	52	64
両流細川譚	岡鬼太郎	65	118
飯殺姿	森田二十五絃	119	131
四年ぶり	沢小民	132	145
袖枕	北島春石	146	160

(注) 目次には、「両流細川譚」の前に「院本」とある。
「飯殺姿」の前に「懸賞小説」とあり、「第五回当選短編小説」の第一等〜第三等の発表で、「雑録」に思案の選評がある。なお同欄に縁雨は「仕入残り」を掲載している。

水辺の森	上村左川	166	198
岩なだれ	小島蓬城	199	236
水絵行脚	鶴沢四丁	237	245
山番	矢崎嵯峨の家	246	262
東海の仙区	勝間舟人	263	274
浜風	田村松魚	275	300
獄籠の烟	久保天随	301	314

(注) 随筆、紀行文の類も混在しているが、一往すべての作品をあげた。「水辺の森」の内題の作者名は「モウバッサン作」、「山番」は、「ツルゲエ子フ作」
「水絵行脚」の内題は「水絵行脚(拂沢紀行)」とある。

第九卷第十号 定期増刊 山と水(明治36年7月15日発行)

山雨水晴	巖谷小波	1	17
神泉島	江見水蔭	18	56
京の山	中川霞城	57	88
京の水	中山白峯	89	108
うたかた	三島霜川	109	135
岩蓮華	武田桜桃	136	149
木下川	磯坪水	150	185

第九卷第十一号(明治36年8月1日発行)

地底の人	江見水蔭	1	86
むごい助命	バルザック作	87	98
極楽村	正宗白鳥訳	99	156
鮎鮎	田口梅汀	157	170
羊かひ	雪野竹人	171	181
紅葉が淵	市川露葉	182	191

(注) 目次には、「鮎鮎」の前に「懸賞小説」とあり、「第

六回懸賞当選短編小説」の第一等〜第三等を収め、〈雑録〉に、思案の「第六回懸賞小説を読む」及び緑雨の「仕入残り」がある。

第九卷第十二号 (明治36年9月1日発行)

ストライキ	小栗風葉	1	37
家庭難	内田魯庵	38	58
兄弟	モウパッサン作 上村左川訳	59	117
緋帛紗	秋玲瓏	118	129
へだて	大石夢幻庵	130	144
此の子	林玄川	145	157

(注) 目次には、「緋帛紗」の前に「懸賞小説」とあり、第七回当選作の一等〜三等を示している。〈雑録〉に思案の前号同様、選評があり、緑雨の「仕入残り」も連載されている。

凡人界	川上眉山	1	69
第三者	国木田独歩	70	97
兄弟	モウパッサン作 上村左川訳	98	150

五百円 中村稻海 151
 白芙蓉 田村西男 165
 (注) 目次には、「五百円」の前に「懸賞小説」とあり、第八回の当選作であるが、今回は一等はなく、二等と三等のみで、〈雑録〉に思案の選評がある。

第九卷第十四号 定期増刊 月と露 (明治36年10月15日発行)

小説月と露	饗庭篁村	1	18
月下感旧	依田学海	19	29
月色露光	巖谷小波	30	47
玉玲瓏	長田秋澗	48	66
月前露後	国府犀東	67	83
白萩	田村松魚	84	148
秋の岐蘇路	田山花袋	149	164
白露	藤本夕麿	165	213
秋の天地	大町桂月	214	219
草籠	斎藤素影	220	240
つゆ草	木村小舟	241	253
日待	勝間舟人	254	264
庭の夜露	永井荷風	265	270

第九卷第十五号(明治36年11月1日発行)

月の一夜	岩田鳥山	271	〜	288
露の一夜	武田桜桃	289	〜	301
秋の空	石橋思案	302	〜	317
<p>(注) 随筆的なものが混在しているが、すべての題名と筆者名を掲げた。「露の一夜」は、「材をマーテルリンクの「盲目」に採る」とある。</p>				
白羽箭	泉鏡花	1	〜	99
篠の一節	藤本藤陰	100	〜	108
瑞西義民伝	巖谷小波 <small>シルレル作</small>	109	〜	144
芦分船	伊藤小翠	145	〜	152
征北の入	滝閑頓	153	〜	167
夜嵐	阿部泣哉	168	〜	184
<p>(注) 「瑞西義民伝」は、内題には「<small>ス井ス</small>脚本瑞西義民伝」とあり、「ウ井ルヘルム、テルの一節」とあり、「征北の入」は、内題には「征北の人」とある。目次には「芦分船」の前に「懸賞小説」とあり、以下第九回当選作の一等〜三等で、 〈雑録〉に思案の選評がある。</p>				

第九卷第十六号(明治36年12月1日発行)

唾下の家	江見水蔭	1	〜	65
女ごころ	加藤眠柳	66	〜	87
奇聞虚無党	田口掬汀	88	〜	133
写生難	高橋南浦	134	〜	145
柴栗	千葉不忘庵	146	〜	153
鳴のうらみ	小山花礁	154	〜	167
<p>(注) 目次には「写生難」の前に「懸賞小説」とあり以下は第十回当選作の一等〜三等で、〈雑録〉に思案の選評がある。〈世態〉に近藤蕉雨の「妾奉公」があり、〈時文〉に桂月の「尾崎紅葉を吊ふ」〈雑録〉に思案の「嗚呼／紅葉君」がある。</p>				
<p>本目録の作成にあたっては、架蔵誌のほか、日本近代文学館・天理図書館所蔵誌によった。</p>				